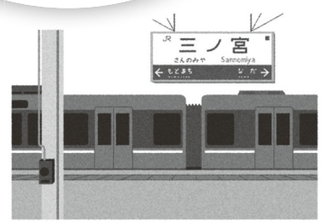
volume 134

変わる日本の「暮らし」と「まち」

神戸をより活力と魅力あるまちに！にぎわいと繋がりを生む新駅ビル

兵庫県神戸市
三宮クロススクエア東地区
2021年●令和3年～



阿部民子 text by Tamiko Abe
illustration by Shigeyuki Sakata

瀬戸内海と六甲山に囲まれ、古くから海外との貿易港として発展してきた港町・神戸。国際的でアカデミックな雰囲気は、ほかの都市にはない独特の個性を放っている。

その神戸の都心、三宮周辺地区が、今、大きく変わろうとしている。2021年の神戸三宮阪急ビルのリニューアルを皮切りに、2022年には中央区役所の新庁舎と磯上体育館が完成。昨年4月には東遊園地の再整備が完了、2027年には西日本最大級となる中長距離バスターミナル、2028年には神戸市役所本庁舎2号館が完成予定…と、まさに怒濤のような再整備が進行中だ。

○駅ビルでまちの課題を解決

神戸三宮の各所で次々と始まった再整備。これには大きな理由がある、と話すのは、神戸市都市局　都心三宮再整備課の飯塚教雄課長だ。

「神戸は、1995年の阪神淡路大震災で甚大な被害を受けました。以来、復旧復興を最優先にし、ようやく20年後の2015年に神戸都心の将来ビジョンと三宮の再整備基本構想を作成できました。それから約10年、構想をもとに多くの事業が動き出しているのです」

再整備の核ともいえるのが、神戸の玄関口である三宮周辺の整備だ。JRなど6つの鉄道駅があり、各種バスが発着する交通の要所でありながら、駅の乗り換え動線がわかりにくい、人のための空間が少ないといった課題が指摘されていた。

その解決策ともいえるビルの準備工事が昨年度から始まっている。JR西日本とUR都市機構、神戸市の三者が連携して推進する、（仮称）JR三ノ宮新駅ビル開発及びその周辺の再整備だ。ビルの建設はJR西日本、行政手続きや周辺の各ビルをつなぐ歩行者デッキなど公共設備の整備は神戸市、そしてURが工事間調整や公共施設活用に係るルールづくり、完成後のエリアマネジメントなどを支援。それぞれ得意のノウハウを駆使して、協働で開発する計画になっている。

新駅ビルに関して、JR西日本交通まちづくり戦略部プロジェクトリーダーの網田将志課長に伺った。

「低層に商業施設、中層がオフィス、上層にホテルが入る予定です。高さは、ポートアイランドから六甲山の稜線が見えるように、という市の規制に則った150m強。神戸のイメージに合わせて、ドレスをまとったような優雅なデザインを検討しています。単にビルを作るのではなく、三宮の課題解決ができるビルにする計画です」

課題解決の具体策として、新駅ビルの中には公共的な空間としての動線をつくり、6つの鉄道駅の乗り換えがスムーズになるように繋ぐ。さらにはJRの改札から、人がまちへと流れる空間デザインにすることが計画されている。同時に、神戸市では、新駅ビルの面する三宮交差点周辺を「三宮クロススクエア」として整備。現在の10車線を6車線に縮小、周辺の民地も合わせて広場空間を創造。車の空間から人が主役の空間へと変換し、人が行き交い、集い、憩える、より便利で機能的な神戸の新しい象徴として再生する将来像を描いている。三宮周辺地区は、2つの事業の融合で大きな変換を遂げようとしているのだ。

左は未来のJR三ノ宮新駅ビル。右は現在、新駅ビルを建設中の工事ヤード。

○複雑で高度な事業を下支え

それにしても、一日の乗降客数70万人以上に及び、多くの事業者が関わる新駅ビルおよび一帯。駅前という限られた空間のなか、まちの動きを止めることなく、安全に工事を進めていくのは非常に困難な事業になる。その調整役を担うのが、URだ。UR西日本支社の留目峰夫担当課長が説明する。

「当事業でのURの仕事は、主に3つあります。1つは、土地の一部を取得して、共同事業者として駅ビル事業に参画すること。2つめが、発注者の異なる事業が同時進行で滞りなく進むよう、設計の段階から施工手順などを考え、相互間の調整をする交通整理のような役割。そして3つめが、完成後の空間をどう使うかという、エリアマネジメントのお手伝いです。いずれも表からは見えず、何事も起きないことが任務を果たすことという黒子的な仕事。その反面、URとしても大きなプロジェクトで、難易度も高い。だからこそやりがいがあると、気を引き締めています」

「今回の事業は、新駅ビルやデッキも含め、全体として完成しないと効果が発現しないだけに、工事の調整は非常に重要かつ難しい。さらにまちの魅力を高めるためには、エリアマネジメントも非常に重要です。震災の経験からも、まちなかでの人の繋がりは不可欠。そのためにも、多彩なイベントなど、人が触れ合い、新しい体験や経験ができるしつらえができるよう、ぜひURさんの力をお貸しいただきたい」と神戸市の飯塚課長。JRの網田課長も「日本中のまちでの知見、経験をぜひ持ち込んでいただきたい」と期待を寄せる。

「新駅ビル周辺だけでなく、いずれは三宮からウォーターフロントまでが恒常的ににぎわうよう、2つの階層でのエリアマネジメントも考えていきたい」とURの留目担当課長。工事の完成予定は、2029年度。神戸のまちが真の復興を果たし、活力を長く維持していくために。新駅ビルと三宮クロススクエアの完成に、多くの期待が集まる。

街に、ルネッサンス
UR 東北の復興まちづくりに 全力で取り組んでいます
UR都市機構
［企画制作］新潮社